

CSR 報告書 2017



白金、Platinum
触媒から抗がん剤まで、可能性を十分に秘めた期待の星。



金、Gold
装飾用はもちろん、携帯電話やスマホの中で極細線となって電気をつなぐ大切な役目を果たすマルチタレント。



銀、Silver
銀なくして写真は生まれなかった。鏡にも使われる身近な存在。



パラジウム、Palladium
水素を大量に取り込める性質で高純度水素製造装置として威力を発揮。



ロジウム、Rhodium
塊の状態であれば、どんなものにも溶けない。非常に硬く、表面を硬くするためにめっきに使われる。



イリジウム、Iridium
硬さ、耐食性に優れ、自動車用スパークプラグや、高温に耐えるためLED用サファイヤ基板製造用のつぼにも使用されている。



ルテニウム、Ruthenium
水から水素を発生させる光触媒として活躍。ハードディスクの記録容量の増加に貢献。



オスミウム、Osmium
バイオテクノロジーや科学捜査に役立っている。



適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC認証紙を使用しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



国産材の利用を促進する「木づかい運動」に応援しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



企業理念と行動指針

企業理念

**TANAKAグループは、
貴金属のリーディングカンパニーとして、
創造性あふれる技術力をもって、
お客様の信頼と期待にスピーディーに応え、
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、
美しい地球の未来に貢献します。**

行動指針 Code of Conduct

- | | |
|----------|---------------------------|
| 1. あいさつ | Greet Everyone |
| 1. えがお | Show your Smile |
| 1. かんしゃ | Give Thanks |
| 1. あんぜん | Maintain Safety |
| 1. ちょうせん | Challenge Yourself |



田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金および銀の公認審査会社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査会社にも任命されています。どちらも、世界で5社のみ(国内では田中貴金属工業(株)のみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

編集方針 | CSR報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に向けたCSR(企業の社会的責任)の取り組みをステークホルダーの皆様へ報告し、コミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。

2013年版よりデザインコンセプトとして新しく採用した「贈り物」を継承し、わかりやすさ、読みやすさを心がけて編集しています。2016年度は、大きく3つに分類された「TANAKAが創出する価値」「社会的責任を踏まえた事業活動」「自由闊達で誠実な企業風土」に基づき、企業活動との関係に重きを置いた表現を試みています。

皆様のお声を田中貴金属グループの今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

対象期間 | 2016年4月1日～2017年3月31日
但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

対象範囲 | TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。
(メタローテクノロジーズインターナショナル株式会社を除く)
なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。

発行時期 | 2017年7月

参考ガイドライン | (一財)日本規格協会「ISO26000:2010」

ウェブサイト | 本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、下記のウェブサイトをご利用ください。
<http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html>

発行責任部署 | TANAKAホールディングス株式会社
CSR・広報本部 CSR推進部
〒100-6422
東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング22階
TEL 03-6311-5506(直) FAX 03-6311-5508
ホームページ <http://www.tanaka.co.jp/about/csr>

CONTENTS

- 00 はじめに
- 02 トップメッセージ
- 04 田中貴金属グループについて

TANAKAが創出する価値

- 06 社会に新たな価値を届ける
- 08 研究開発

社会的責任を踏まえた事業活動

- 10 TANAKAの品質
- 12 地球環境を守る
- 14 地域・社会への貢献

自由闊達で誠実な企業風土

- 16 より安全な職場環境づくり
- 18 一人ひとりの活躍
コンプライアンス
- 20 リスクマネジメント
CSRと経営の基盤

- 22 CSRパフォーマンス
第三者保証

- 24 第三者所感
田中貴金属グループより
ISO26000対照表



トップメッセージ

「2020年のありたい姿」への成長を支えるCSR活動の推進

幅広く、力強く……。さらなるCSR活動の積み重ねで
確実な成長と発展を、全てのステークホルダーの皆様と共に。

グローバルな展開を推進する 新しい「田中貴金属グループ」が始動

田中貴金属グループの中期経営計画である「GOGO計画2020」の2年目にあたる2016年度は、2015年度に導入した「社内カンパニー制」の定着に向けて全社一丸となって取り組み、その実績が徐々に始まった年でもあります。この社内カンパニー制は、GOGO計画2020の「ありたい姿」の達成に向けた事業運営の核となる体制であり、今後さらに進化させていきます。

2016年度の最大のトピックスは、スイスに本社を構えグローバル展開を行ってきた同業社である「メタローテクノロジーズインターナショナル」社の発行済株式100%の取得です。メタロー社は、回収精製・めっき液・電気接点等、一部当グループと同様の事業を展開しており、また貴金属を経営資源の核に据え、従業員を大事にし、自由闊達に仕事に取り組む企業風土は、当グループと大きく重なります。今回の買収は正に、志を一つにする仲間を得たと共に、そのシナジー効果により、「新たな田中貴金属グループ」事業のグローバル展開を一気に推進する大きな機会でもあります。

一方、海外に広く展開するメタロー社と協働するには、より一層のリスク管理、及びコーポレートガバナンスを徹底する必要があります。今後お互いの経営層が手を携え、従業員同士が様々な交流を図りながら、この新たな田中貴金属グループとしての管理・運営を推進していきたいと考えております。

リスク管理とコンプライアンスの さらなる対応強化を目指して

当グループ全体のリスク管理の取り組みである、2015年度に設立したリスクマネジメント委員会の活動も2年目に入りました。その運営も軌道に乗りつつあり、昨年度は自然災害・顧客取引・コンプライアンスなどに関する様々なリスクを抽出し、その対応を進めました。

自然災害によるリスク対応として、昨年度は首都直下型地震を想定し、本社緊急対策本部の訓練を実施しました。この訓練には私をはじめ緊急対策本部員であるTANAKAホールディングス(株)の本部長全員が参加し、関連する部署との連絡及び連携など、いざという時にどのような対応、指示を行うべきかを身をもって体験

GOGO計画2020

2020年の田中貴金属グループのありたい姿

自由闊達な企業風土を継承し、
貴金属事業の3本柱の更なる推進により
グローバル企業に成長・発展している

ありたい姿

現状

あるべき姿

2016年度

2017年度

2020年度

しました。その中で多くの気づきを得ることができ、その結果は今後のBCPIに反映させていきます。2017年度はお客様への製品供給責任を全うするため、現在も行っている生産拠点のBCPをより充実するための見直しを進める予定です。BCPの訓練及び改善活動は今後も継続的に行っていきます。

もう一つ重要なリスク対応としては、個人情報の保護があります。近年、個人情報漏洩問題による企業の不祥事が大きく取り上げられており、新たに2016年1月からマイナンバー法が施行され、2017年5月には個人情報保護法が改正されました。個人情報の漏洩は重要な企業リスクとして考えていかなければなりません。田中貴金属グループは産業用事業、資産用事業、宝飾用事業全てにおいてお客様の個人情報を預かる立場であり、従来から個人情報保護の徹底を図る施策を行ってきました。2015年度には個人情報管理方針及び規程を改定し、グループ全体の管理強化を進め、田中貴金属ジュエリー(株)及び田中貴金属工業(株)貴金属リテール部では、個人のお客様の個人情報保護を目的にISO 27001を取得、人事総務部では従業員のマイナンバー管理を徹底しています。そして2016年度はグループ全体の個人情報管理のPDCAを回すことを目的に、個人情報を“個人顧客個人情報”、“法人顧客個人情報”、“社員等個人情報”の3区分とし、それぞれの情報を統括する部署の役員を責任者とししました。さらにこれら責任者による個人情報管理委員会を設立し、今後はこの委員会を中心に今まで以上に個人情報の管理を強化していきます。

また、田中貴金属グループ行動規範の見直しを実施し、EICCへの対応等、CSR調達に向けた活動を一層推進しています。

これらのリスク管理及びコンプライアンスは企業のサステナビリティには不可欠であり、今後もリスクマネ

ジメント委員会を中心にしっかりと監視していきたいと考えています。

2020年に向けて 新たな社会貢献活動をスタート

最後に、当グループでは従前より、社会貢献活動も重要な活動と位置づけております。近年、「スポーツの実践」と「障がい者スポーツの支援」の活動が東京都から認められ、2015年に引き続き2016年も連続で『東京都スポーツ推進モデル企業』に認定されました。また、障がい者スポーツ支援体制を強化すべく、2016年11月に広報・広告部内に「障がい者スポーツ推進室」を設置し、早速2017年4月より、日本ブラインドサッカー協会への協賛を決定しました。2020年に向けて障がい者スポーツ支援(「知る」・「見る」・「支える」)活動を社内外に推進していきます。

また2016年度は自然災害の被災地への支援も積極的に行いました。2016年4月に発生した熊本地震に対し、被災地の早期の復興を願い、熊本県に義援金を寄付しました。さらに東北復興支援活動の一環として、社内募金活動による“記憶の継承、津波到達地点への桜の植樹”を2013年度より継続して行っています。今後も当グループの社会貢献活動を一層推進していきます。

メタロー社の買収により田中貴金属グループの海外展開が加速する今後も、世界中のお客様、サプライヤー様、地域住民の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様と共に、共感していただけるようなCSR活動を推進していきます。本報告書をご一読いただいた皆様には、グローバルにCSR活動を推進する田中貴金属グループにイメージを膨らませていただき、また今後の活動にご期待いただけましたら幸甚に存じます。

TANAKAホールディングス株式会社
代表取締役社長執行役員
田苗 明

田苗 明

田中貴金属グループの事業及び主要製品

産業用

産業の発展を支える貴金属の可能性を最大限に追求しています。近年は、世界的に重要度の高まる医療や環境・エネルギーの領域に注力しています。

- AuAg系事業 ●化学回収事業 ●PGM系事業
- ボンディングワイヤー事業 ●めっきプロセス事業



電気接点



貴金属回収

資産用

貴金属を資産としてご活用いただくために、確かな品質の金やプラチナの地金(じがね)やコインを製造・販売するほか、積立プランも提供しています。

- 地金(じがね) ●コイン ●積立プラン



資産用金地金

宝飾用

人生の様々なシーンを輝かせる宝飾品を、長く愛するにふさわしい確かな品質で提供しています。

- ジュエリー ●工芸品 ●記念品・贈答品 ●買取・リサイクル

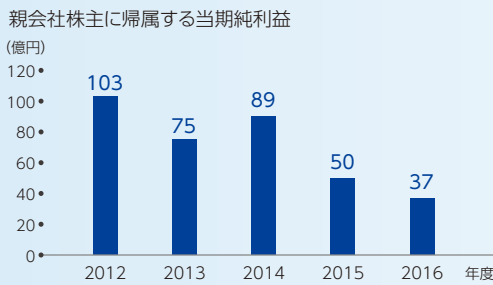
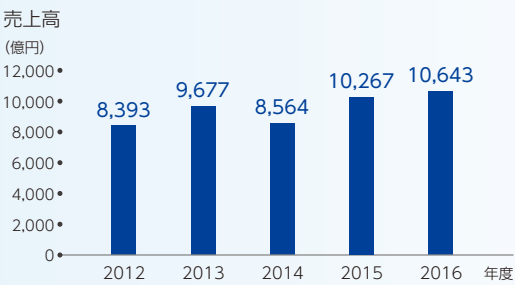


プラチナマリッジリング

田中貴金属グループの業績

業績要約

	2015年度	2016年度	前年度比
売上高	1,026,707	1,064,259	103.7%
税引前利益	8,801	6,128	69.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	5,030	3,690	73.4%
総資産	422,205	581,304	137.7%
自己資本比率	43.8%	33.4%	—



国内拠点

TANAKAホールディングス株式会社 (THD)

●本社(東京)

田中貴金属工業株式会社 (TKK)

●本社(東京) ●岩手工場 ●富岡工場 ●市川工場 ●袖ヶ浦工場 ●伊勢原工場 ●平塚工場 ●湘南工場 ●平塚テクニカルセンター ●筑波事業所(テクニカルセンター) ●伊勢原テクニカルセンター ●FC触媒開発センター ●TANAKA物流センター ●名古屋支店 ●大阪支店 ●福岡支店 ●滋賀営業所

田中電子工業株式会社 (TD)

●佐賀本社工場 ●東京事務所 ●湘南分工場

田中貴金属ジュエリー株式会社 (TKJ)

●銀座本店 ●新宿店 ●ホテル椿山荘東京店 ●伊勢丹立川店 ●横浜元町店 ●仙台店 ●新潟三越店 ●名古屋店 ●栄店(プライドル専門店) ●名古屋三越 栄店 ●心斎橋店 ●高松三越店 ●福岡 西鉄グランドホテル店

株式会社日本ピージーエム (PGM)

●本社(東京) ●小坂工場

日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

●本社(東京) ●平塚事業所

海外拠点

田中貴金属工業株式会社 (TKK)

●台湾田中貴金属工業股份有限公司 ●田中先端有色金属材料(杭州)有限公司 ●田中先端有色金属材料(寧波)有限公司 ●ソウル支店 ●香港支店 ●台北支店 ●高雄営業所 ●マニラ支店 ●田中貴金属(上海)有限公司 ●本社(上海) 深圳支店 ●田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社 ●本社(シカゴ) サンノゼ支店 ●田中貴金属インターナショナル(タイランド)株式会社 ●田中貴金属インターナショナル(欧州)有限公司 ●田中貴金属インターナショナル(マレーシア)株式会社 ●田中貴金属(シンガポール)株式会社 ●TANAKA America, Inc.

田中電子工業株式会社 (TD)

●田中エレクトロニクス・シンガポール Pte. Ltd. (TES) ●田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn. Bhd. (TEM) ●田中電子(杭州)有限公司 (TEC) ●台湾田中電子股份有限公司 (TET) ●台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター (TET/TC)

日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

●EEJA (Shanghai) Co., Ltd.

喜星金属株式会社 (HEESUNG)

株式会社日本ピージーエム (PGM)

●NIPPON PGM AMERICA, Inc. ●NIPPON PGM EUROPE S.R.O.

成都光明田中環保技術有限公司 (CGTEC)

成都光明派特貴金属有限公司 (GMPT)

メタローテクノロジーズインターナショナル株式会社

田中貴金属工業株式会社は、スイスを拠点に貴金属めっき事業、電気接点事業、回収精製事業を展開するメタローテクノロジーズインターナショナル株式会社の発行済株式の取得手続きを2016年9月27日に完了しました。

メタロー社CEO、Philippe Royer氏を招き、2016年12月に田中貴金属グループとして初の取締役会を開催



社会に新たな価値を届ける

田中貴金属グループは、創業から131年の歴史を刻み、発展する中で、お客様に、そして社会全体へ、特別な価値を届け続けてきました。これからも、貴金属の可能性を追求しながら、世界に向けて創出する価値の“厚み”と“幅”を広げていきます。

産業用

産業

TANAKAホールディングス株式会社
代表取締役専務執行役員
事業戦略本部 本部長
田中貴金属工業株式会社
代表取締役副社長執行役員

田中 浩一郎



社会の根幹を支え、 持続可能な社会への動きを後押しする

私たちは、半導体・電子部品から医療、食品まで、非常に幅広い事業分野のお客様へ製品をお届けしています。“縁の下の力持ち”として、貴金属材料の供給を通じて産業全般を、そして社会の根幹を支えていることが、私たちの誇りであり、やりがいの源泉です。

持続可能な社会への動きの象徴でもある太陽電池、燃料電池、電気自動車といった領域には、電極、配線、接点のような“電気が流れる部分”を供給しています。また、自動車の排ガス処理に使う触媒も、重要な製品領域です。より高性能・高品質の製品を開発し、安定的にお届けすることで、お客様が生産する最終製品のパフォーマンスや安全性が確実に向上し、資源・エネルギー問題や地球環境問題

の解決に向けて貢献しています。私たちは、このことを念頭に置き、日々努力しています。

製品に使用した貴金属は、希少な資源として可能な限り回収し、製品の原料として再生しています。今日の社会で使われている無数の製品に貴金属が含まれている状況は、「都市鉱山」とも呼ばれ、その有効活用は大きな社会的課題でもあります。技術力に裏打ちされたTANAKAのトータルソリューションは、そこまでを対象にしています。

常に社会を意識しながら、お客様に喜んでいただけるものを生み出す。その積み重ねが、結果として、企業理念にある「ゆとりある豊かな社会」や「美しい地球の未来」につながっていくと考えています。



資産用・宝飾用

資産・宝飾

TANAKAホールディングス株式会社
取締役執行役員
貴金属本部 本部長
田中貴金属ジュエリー株式会社
代表取締役社長執行役員

田中 和和



“信用を形にする”仕事を、 一つひとつ丁寧に積み重ねる

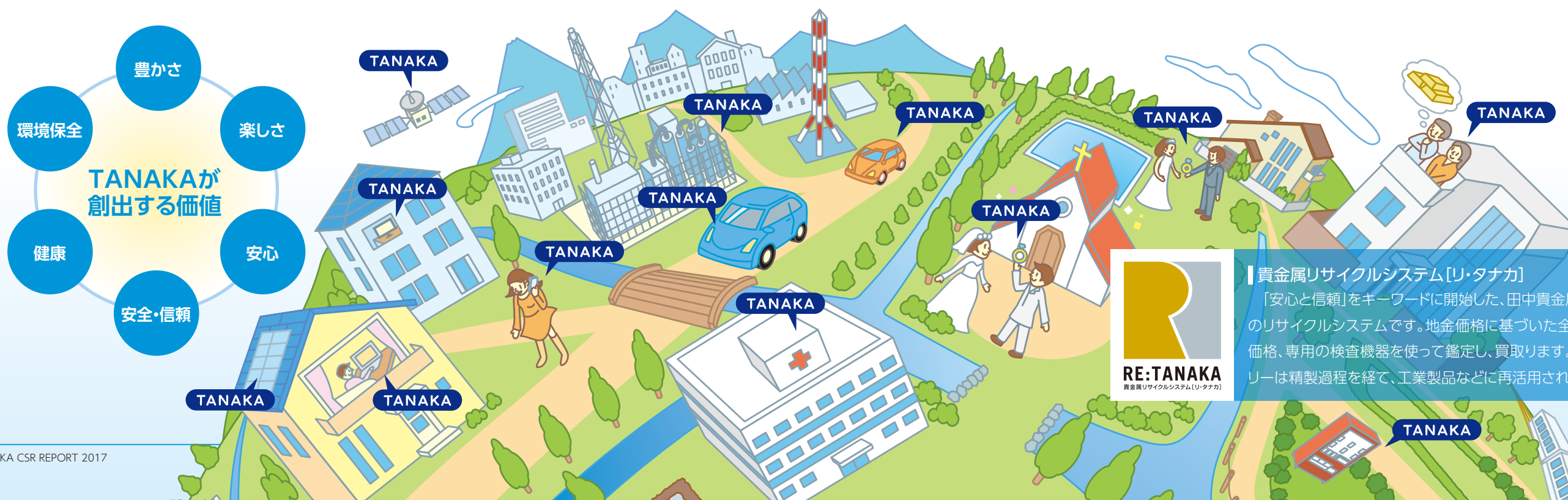
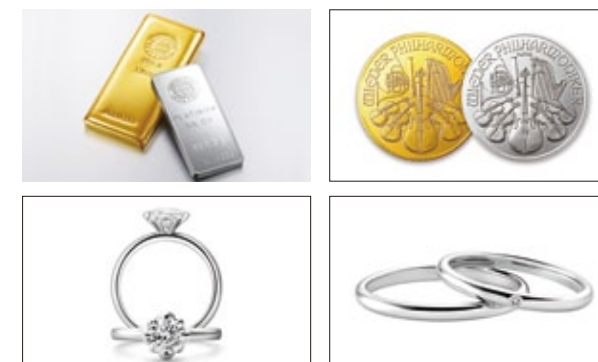
TANAKAの資産用・宝飾用製品は、産業用製品とは対照的に、「目に見えやすい」ことが特徴です。そして、その価値の多くも、直感的にご理解いただけます。それだけに、私たちの日々の姿勢が一層問われます。

金やプラチナの地金に代表される資産用製品は、実物資産として安定的な価値を有し、いざという時に頼れるものです。そのため、未来に不安を感じがちな今日にあって、安心の拠り所となることが出来ます。TANAKAは、金、銀、プラチナ、パラジウムの公認審査会社として、高い信用を築き、維持してきました。そして、高品質で社会的にも価値が確かな製品を、お客様に届け続けています。

また、ジュエリーをはじめとする宝飾用製品については、

品質の良いものをつくることはもちろん、楽しく、ワクワクするものをお届けすることを大切にしてきました。さらには、ダイヤモンド原石の産地で社会的な問題がないことを保証するなど、胸を張って商品をおすすめできるように、できる限りの努力をしています。そして、愛されて寿命を終えた製品には、リサイクルによって新たな命を吹き込みます。お客様が一つの宝飾品に抱く思いを想像することが、私たちの取り組みの出発点であり、支えでもあります。

こうした価値は、私たちが「当たり前」のことをきちんとする」という姿勢を徹底することが基礎になります。「お客様の期待を裏切らない」という姿勢は、製品や接客に滲み出る」という緊張感を胸に、これからも信用を形にする仕事を、一つひとつ丁寧に積み重ねていきたいと考えています。



【貴金属リサイクルシステム [リ・タナカ]

「安心と信頼」をキーワードに開始した、田中貴金属の貴金属ジュエリーのリサイクルシステムです。地金価格に基づいた全国一律の適正な買取価格、専用の検査機器を使って鑑定し、買取ります。また、買取ったジュエリーは精製過程を経て、工業製品などに再活用されます。

研究開発



田中貴金属グループにとって、研究開発は価値創造の源泉です。
広い視野を持って貴金属の可能性を追求し、より豊かな社会、そして美しい地球への扉を着実に開き続けています。

ジカウイルスの検出試薬を開発

世界で初めてイムノクロマト法によって、血中から直接ジカウイルスを検出する試薬を開発しました。本検出試薬は、10～15分という短時間で迅速にジカウイルスを検出することが可能になったため、従来の検出方法よりも簡便かつ短時間、低コストを実現しました。

本検出試薬開発の背景として、ジカウイルスの感染は2015年からブラジルを中心に流行が続いており、感染すると発熱、結膜充血といった症状を伴うジカ熱を発症します。感染後の早い時期から直接的、特異的かつ簡便、迅速に検出できる試薬が求められていました。

当グループでは、蓄積された技術、独自の抗体スクリーニング技術、並びに長年に渡って蓄積した金ナノコロイドの製造技術を応用することによって、ウイルスそのものを直接検出できる試薬を開発しました。



金コロイド



TANAKA NOW

診断キットビジネスユニットは、操作の簡単な検査薬を世界中のお客様に提供すべく、日々精力的に開発を行っています。この検査薬には金コロイドが使われており、金コロイドを物理的・化学的に制御、修飾することで、検査薬の高性能化を図っています。

発展途上国における人口増加や先進国における高齢化、交通網の発達による感染症のパンデミック化等によって医療費はますます増え続け社会的な問題になっています。今後も診療に役立つ検査薬を開発・製造することによって、医学的にも経済的にも貢献していきます。

田中貴金属工業株式会社 新事業カンパニー 診断キットビジネスユニット 開発部 リーダー 鈴木 啓太

知的財産権の創出と保護

特許権、実用新案権、商標権、意匠権、著作権などの知的財産権及びノウハウは企業の重要な財産であるとの認識のもとに、積極的に知的財産権の創出に努めています。

新技術の研究、製品・商品の開発、生産及び販売にあたっては、第三者の知的財産権を尊重し、故意に侵害しないことはもちろんのこと、他社からの侵害行為に対しては各国の法令に則って厳正に対処しています。

2016年度に取得した特許から

※一部抜粋

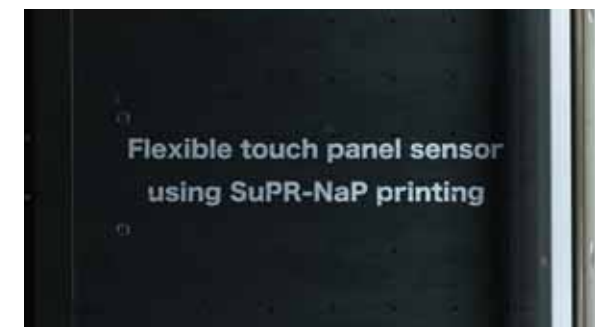
特許第5912559号
FePt-C系スパッタリングターゲットの製造方法
特許第5917201号
イムノクロマトグラフィー用試験ストリップ
特許第6006647号
噴霧機用メッシュおよびその製造方法
特許第6049480号
ガラス製造用スターラー
特許第6093224号
過酸化水素分解用固体触媒、及び該固体触媒を用いた過酸化水素の分解処理方法

特許第5913556号
摺動接点材料及びその製造方法
特許第6091019号
熱伝導性導電性接着剤組成物
特許第6068406号
ナノサイズ銀微粒子インク及び銀微粒子焼結体
特許第6053223号
固体高分子形燃料電池用の触媒及びその製造方法
特許第6002300号
ボールボンディング用パラジウム (Pd) 被覆銅ワイヤ
特許第6014848号
無電解白金メッキ液

超微細回路を簡便・高速・大面積に印刷できる新原理の印刷技術を開発

産業技術総合研究所、東京大学、山形大学と共同で画期的な印刷技術「スーパーナップ (SuPR-Nap) 法」を開発しました。スーパーナップ法は、紫外線照射でパターンニングした基材表面に銀ナノインクを表面コートすることで、照射部分のみに銀ナノ粒子を選択的に化学吸着させ、吸着した粒子と粒子の自己融着で低抵抗の銀配線を形成します。この方法により、基材に強く密着し、最小線幅1マイクロメートルの超高精細な金属配線を、真空技術は一切使うことなく、大面積基材上に簡便・高速に印刷で作製することができます。

本技術によってフレキシブルなタッチセンサーが実用化される予定です。



TANAKA NOW

化学材料開発部では貴金属のナノ粒子や化合物を開発していますが、その中で本開発はフィルムへの印刷というこれまでに経験のない分野に取り組んでいます。そのため当初は初歩的な原因で失敗することが多々ありました。しかし、社内外の方々と議論することでフィルム加工のノウハウを吸収し、それにTANAKAの貴金属粒子の技術を組み合わせることで、現在では他社にはない独自の技術が開発できております。今後も機能性貴金属を用いた印刷による製品分野へのTANAKAの新たな事業展開を支えるよう研究開発に邁進してまいります。

田中貴金属工業株式会社 新事業カンパニー 技術開発統括部 化学材料開発部 牧田 勇一

「良い物」をお客様にお届けすることが、田中貴金属グループの信条です。
製品自体の品質はもちろん、製品をつくる過程で人権、環境、安全・衛生、倫理などにも配慮しています。

公認審査会社(グッド・デリバリー・レフリー)

田中貴金属工業(株)は、世界で流通する貴金属の品質を保証するために、LBMA(ロンドン地金市場協会)より金・銀の公認審査会社、LPPM(ロンドン・プラチナ・パラジウム市場協会)よりプラチナ・パラジウムの公認審査会社に任命されています。

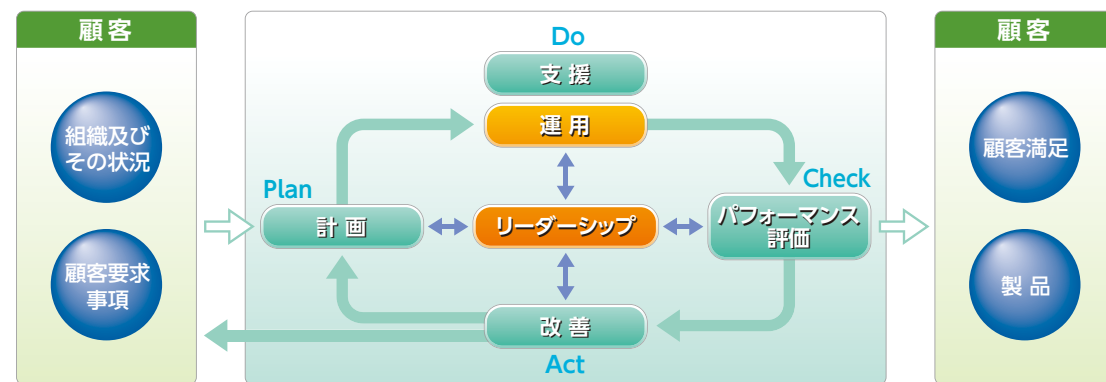


LONDON
PLATINUM &
PALLADIUM
MARKET

QMSによる品質管理活動

お客様にご満足いただける安心で安全な製品を継続的に提供するため、ISO9001に基づいた品質マネジメントシステム(QMS)を構築し、運用しています。また、刻々と変わるお客様の要求品質に迅速に対応し、お客様の信頼と期待に応えていくため、QMSの有効性をレビューしてシステムを改善しています。加えて、高度な品質管理体制が求められる、自動車業界向けの品質マネジメントシステムISO/TS16949の要求事項を反映させて、QMSの継続的改善に取り組んでいます。

品質マネジメントシステムの体系図



紛争鉱物問題への取り組み

田中貴金属工業(株)は、原材料調達における紛争鉱物(金、タンタル、タングステン、すず)に係る取引上のリスク管理を行い、人権侵害、テロ、マネーロンダリング、不正取引、非人道的行為や武装勢力に関与する調達を回避するため、2012年6月に「紛争鉱物管理方針」を制定し、紛争フリーによる原材料調達を推進しています。

とりわけ金に係る取引上のリスク管理を重要と考え、「金に係る紛争鉱物管理方針」を定めており、2014年6月からは、LBMAレスポンシブル・ゴールドガイダンスに基づく第三者機関によるマネジメントシステム監査に合格し、毎年更新しています。



LBMA レスポンシブル・ゴールド認証

「紛争鉱物管理方針」「金に係る紛争鉱物管理方針」:
http://www.tamnaka.co.jp/sourcing_policy/

社会品質の確保

CSRサプライチェーンマネジメント

田中貴金属グループでは、人権、環境、安全・衛生、倫理などを含んだCSRに配慮した事業活動を行っており、「EICC行動規範※」の趣旨に沿った「田中貴金属グループ行動憲章・行動規範」を遵守しています。

2016年度は、お取引先様約170社に対して、「EICC行動規範」遵守をお願いすると共に、推進状況の調査を実施しました。さらに、外部機関による「EICC行動規範」に基づく模擬監査や、社内事務局による自主チェックなどを行い、改善を進めています。

※EICC行動規範:電子業界CSRアライアンス(EICC)が制定した行動規範

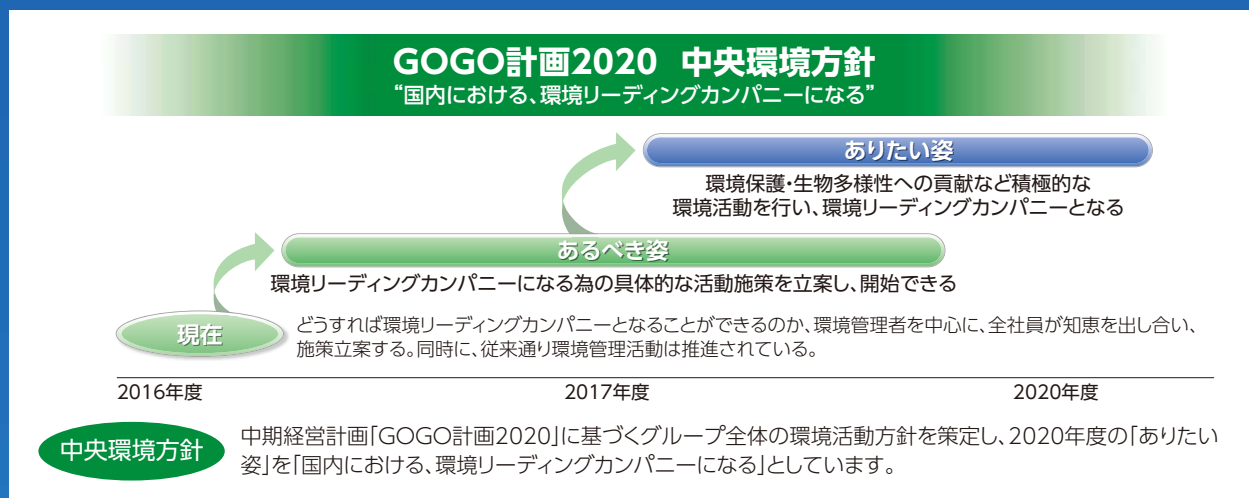
紛争ダイヤモンドへの取り組み

世界のダイヤモンド業界の各団体は、ダイヤモンド取引に関与する各国政府が創設したキンバリー・プロセスを補完する為に、2003年に自主規制を行うことに合意しました。

田中貴金属ジュエリー(株)は、紛争ダイヤモンドの不正な取引を排除するために、このグローバルな制度の導入を歓迎し、業界におけるこの自主規制を積極的に支援しています。

すべてのダイヤモンドの供給元に、紛争への資金提供に関与しないダイヤモンドであることを宣誓するシステム・オブ・ワランティの遵守を求めています。

美しい地球を未来へ継承することは、国際社会共通の課題であり、大きな挑戦でもあります。田中貴金属グループは、事業活動による環境への負荷を最小化するために、あらゆる可能性を追求しています。



環境マネジメントシステム

国内全生産拠点で環境マネジメントに関する「ISO 14001」の認証を取得し、PDCAサイクルを回して、継続的な環境保全活動を実施しています。特に、CO₂排出量削減（地球温暖化の防止）、産業廃棄物排出量削減（循環型社会の形成）、環境異常撲滅活動（環境汚染防止）については、グループ全体の目標を定め積極的に取り組んでいます。

環境保全活動を着実かつ円滑に推進するために、各事業場長で構成される中央環境委員会を最上位としたグループ組織体制を構築しています。また、SHE※推進室長会議、環境管理者で構成される環境専門部会を定期的に開催し、情報共有及び積極的な意見交換を重ねています。

※SHEは、「安全、衛生、環境」の略です。

CO₂排出量削減への取り組み

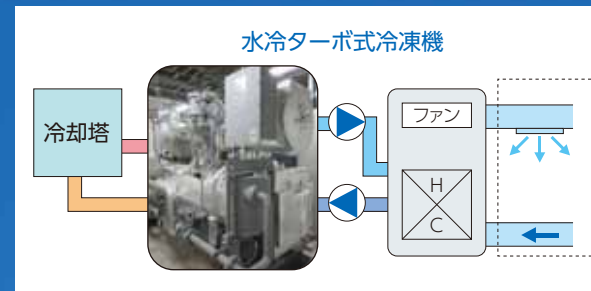
気候変動枠組み条約第21回締約国会議（COP21）で、日本政府は2030年度にCO₂排出量を2013年度比で26%削減すると国際社会に公約しました。田中貴金属グループも、CO₂排出量を2030年度までに30%削減する（2013年度比）という長期目標を立てました。

2016年度のCO₂排出量は、建屋増設及び生産量の増加により、前年度から3%程度増えました。近年は削減が停滞していることもあり外部専門家の助言も受けながら、各事業場での、省エネ委員会による運用管理改善に軸を改めて、省エネルギー活動を推進しています。2016年度には、設備の運転条件最適化や照明のLED化、高効率機器への更新、太陽光発電設備の設置などを実施しました。

省エネルギー活動の事例

●岩手工場（設備更新）

高効率設備に更新し、空調による電力負荷（特に夏場）を削減しました。（年間で約26トンのCO₂排出量を削減）



●湘南工場（太陽光発電）

発電能力50KWの太陽光発電パネルを設置しました。発電した電気は工場の照明に使用しています。



産業廃棄物排出量削減への取り組み

田中貴金属グループの工場では、貴金属の溶解や精製、及び貴金属廃液からの貴金属の回収の際に、酸やアルカリが多く発生します。分別を徹底し、3R（リデュース、リユース、リサイクル）を推進しています。2016年度は、廃棄物量を前年度より約300トン（7.3%）削減することができました。

産業廃棄物排出量削減活動の事例

●田中電子工業（株）（廃液の削減）

産業廃棄物の80%を占めていた潤滑油廃液を削減するために濃縮処理装置を導入し、産業廃棄物を約70%削減することができました。

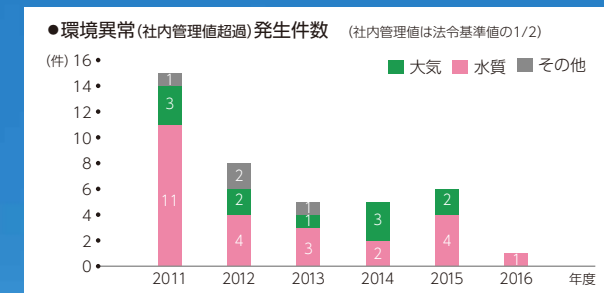


潤滑油廃液の濃縮処理装置

環境異常撲滅活動

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などを未然に防止するため、法規制よりもさらに厳しい社内管理値を設定しています。特に、大気及び水質等については、原則として法令基準値の2分の1を社内管理値としています。

異常発生時には迅速に対応すると共に、原因の把握と再発防止に努めています。社内では「速報」による情報伝達を、関係行政当局へは「通報・届出基準」に基づく報告を行っています。2016年度は、社内管理値を超過する異常が1件発生しましたが、こうした仕組みに沿って対応しました。



社会的責任を 踏まえた 事業活動



悪質客引き撲滅活動



献血活動



東北復興支援ボランティア募金活動



銀茶会



北部工業団地一斉清掃活動



仙台三社祭



工業団地一斉清掃活動



2016年10月「全国障害者スポーツ大会」ボランティア活動参加者

障がい者スポーツ支援

田中貴金属グループは、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナー契約をはじめとする、障がい者スポーツへの支援・応援を実施しています。障がい者スポーツを「知る」・「見る」・「支える」活動をさらに展開すべく、2016年度は企業運動会での障がい者スポーツ体験プログラムの実施や「全国障害者スポーツ大会」でのボランティア活動参加のほか、事業場での写真展や競技紹介冊子の配布などを行いました。2017年4月からは、NPO法人日本ブラインドサッカー協会、ブラインドサッカー女子日本代表への協賛も始めました。

田中貴金属記念財団

TANAKAホールディングス株式会社は2015年4月1日、創業130周年を機に、貴金属の新分野を開拓醸成し学術、技術と社会経済の発展に寄与することを目的とする「一般財団法人 田中貴金属記念財団」を設立しました。

貴金属に関わる研究助成金

本助成金制度は、「貴金属が拓く新しい世界」へのさまざまなチャレンジを支援するため、貴金属が貢献できる新しい技術等の研究をあらゆる分野から募集しています。18回目となる2016年度は、総計177件の応募があり、19件の研究に総額1,630万円の研究助成金を授与しました。



プラチナ賞

東北大学 准教授 福島 誉史 様
ブロック高分子と金属ナノ粒子が創出する
拡張誘導自己組織化配線に関する技術開発



ゴールド賞

北海道大学 教授 三浦 誠司 様
貴金属基ハイエントロピー合金創成の
試みと多元素相平衡の実験的確立

地域・社会への貢献



田中貴金属グループは、事業活動を通じてご縁が生まれる地域や国がより健やかで豊かになるように、自らができる貢献に努めています。会社としての支援、社員によるボランティアの両面から、継続性を大切にする活動を各地で展開しています。

「高専ロボコン」協賛

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)は、高専の学生たちが既存概念にとらわれず「自らの頭で考え、自らの手でロボットを作る」ことでモノ造りの面白さを体験するイベントです。全国57校62キャンパスの高専生が8地区での予選を戦い、勝ち残った25チームが東京での全国大会に進みます。

田中貴金属グループは、若き技術者のモノ造りを応援するために、2012年から「高専ロボコン」に協賛しており、全国大会では田苗社長から特別賞を贈呈しています。

2017年に記念すべき30回目を迎える高専ロボコンを、田中貴金属グループは支援し続けます。



愛の絆 桜の植樹135

東日本大震災以降、東北復興支援ボランティアとして様々な形で活動を行ってきました。2013年度に開始した「記憶の継承」をテーマとする支援活動では、避難の目安となる津波最高到達地点に桜並木を作るため、社員の募金による植樹を行っています。創立135年を迎える2020年までに135本の植樹を目標としており、これまでに107本を植樹しました。



愛の絆 桜の植樹135



TANAKA NOW

東日本大震災から6年が経ち、震災の悲惨さや被災地の現在の状況など報道される機会がなくなってきました。「愛の反対は無関心」とよく言われますが、関心が薄くなっていくような気がして、何かしたいと思ったのがボランティア参加の理由です。植樹地である被災地で聞いた、被災された方の「来るものは仕方がない、でも、生き延びるためにできることがある」との言葉をしっかりと伝えていこうと思います。

田中貴金属工業株式会社 AuAgカンパニー 平塚工場 接点加工セクションリーダー 大保 俊一

TANAKAの社会貢献活動 <https://www.tanaka.co.jp/about/csr/communication.html>



チューリップ球根植え



クリスマスケータリング



工場周辺の清掃活動



緑化美化部会による芝桜の植栽



芝桜



東北復興支援ボランティア 第1回植樹地



福利基金への寄付



古新聞等の寄付活動

より安全な職場環境づくり



安全で、安心して働ける職場づくりは、企業にとって基本的な、かつ奥深い課題です。田中貴金属グループは、お互いに協力できる関係づくりを大切にしながら、社員の安全と健康の確保に取り組んでいます。

安全活動

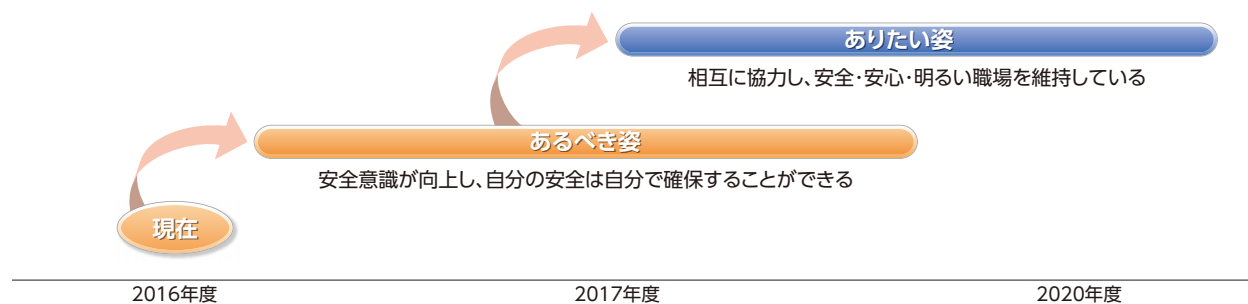
2016年度は、従来の活動に加えて、工場長立哨報告、過去災害対策実施状況確認、中災防(中央労働災害防止協会)の安全管理士による安全診断(前年度から継続)などを行いました。しかし、残念ながら労働災害発生件数は前年度より1件多い24件となり、重大災害も1件発生しました。重大災害の発生を受け、各生産現場では、機械設備の(主可動部分だけでなく)補助的可動部分の操作や、非定常作業による不安全状態・行動にも注目し、災害を防ぐための総点検と対策を実施しています。

交通事故は、2016年度は前年度より4件少ない55件です。従来と同様に、ほとんどが通勤時及びプライベートでの事故で、被害事故が半数以上を占めています。

労働災害と交通事故の防止には、いずれも一人ひとりの安全感、安全意識の向上が重要であるとの考えに立ち、安全教育の充実などの安全管理活動を推進していきます。

GOGO計画2020 中央安全方針

“安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する”



中期経営計画「GOGO計画2020」に基づいて設定された、2017年度の「あるべき姿」、2020年度の「ありたい姿」を目指し、中央安全方針「安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する」のもと、安全管理活動を推進します。



衛生活動

労働安全衛生法の改正(2015年12月)によりストレスチェックの実施が事業者に義務付けられました。法律に基づいた制度を導入し、全社員が回答できる環境を構築し、2016年7月に初めてストレスチェックを実施しました。今後、ストレスチェックを社員が働きやすい職場環境づくりに役立てていきます。

また、社員の健康増進を目的とする「健康チャレンジ」や禁煙キャンペーンも継続実施していきます。このほかにも、急病人が発生した場合に社員が救命活動を行えるよう、継続的に救命講習会を開催しています。このことが評価され、2016年度には東京消防庁より感謝状をいただきました。

健康チャレンジ

健康への関心とは裏腹に、健康増進への取り組みは、つい後回しになりやすいものです。2015年度から導入した「健康チャレンジ」は、食事・睡眠の改善や体力づくりなど、個人で無理なくできる項目を選択して2ヵ月間取り組み、その経過や結果を記録し、健康増進を自ら促す活動です。



TANAKA NOW

筑波事業所は、2006年12月のターゲット生産開始から10年余りが経過しました。その間、7件の人的災害が発生しています。交通事故を含めた災害“ゼロ”に向けて、グループ内各事業場の巡視などを通じて学んだ安全対策を当事業場での活動に活かし、RA・KYT※実施確認、ヒヤリハット対応強化、そして安全啓発活動推進の強化を図ります。

※RAはリスクアセスメント、KYTは危険予知訓練の略

田中貴金属工業株式会社 筑波事業所 安全管理者 松島 光隆

多様性を増す社員の一人ひとりが輝ける職場づくりは、田中貴金属グループの将来にとって欠かせません。さまざまな多様性の切り口に目を向けながら、新しいやり方を意欲的に取り入れています。

人材育成

田中貴金属グループでは、「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育、就業時間の20%は教育」をモットーに、体系的・計画的な育成を行っています。なお、「社員は財産である」との考えのもと、社内では「人財」と表記しています。

●管理者研修のリニューアル

2016年度より「管理者研修」をリニューアルしました。初年度は、マネージャーから新任社長まで66名の管理者が、それぞれ該当の研修を受講しました。2017年度は特に「マネジメント研修」の受講者枠を拡大して実施します。また、「準経営管理職研修」も新設し、新たに準経営管理職へ昇格する社員を対象に実施します。毎年様々な研修をブラッシュアップしながら、管理者のマネジメントスキルの水準向上を推進していきます。

雇用の多様性

これからの田中貴金属グループには、多様な人財が必要です。日本国内の新卒採用はもちろんのこと、外国籍の方や障がいをお持ちの方も積極的に採用し、活躍できる環境づくりに努めています。

働きやすい環境づくりのために、育児休業制度、育児短時間勤務制度、介護休業制度などを法定以上に優遇した内容で制定しています。また外部団体と連携し、育児・介護、その他健康全般に関する諸問題の相談窓口を設け、24時間に対応しています。相談窓口は海外で働くグループ社員や家族も利用できます。社内のポータルサイトによる周知をはじめ、利用しやすい雰囲気づくりにも配慮しています。

●2016年度数値

従業員数男性	1,924名	(1,895名)
従業員数女性	831名	(839名)
女性管理職	74名	
妊娠時短時間勤務	1名	(6名)
育児休業	66名	(56名)
育児短時間勤務	61名	(55名)
障がい者雇用率	1.80%	(1.68%)

※()内は前年度



当グループは仕事と介護を両立できる職場環境の整備促進に取り組んでいます。

CSR通信

CSR推進活動のコミュニケーションツールとして、CSR推進部から毎日パワーポイント1枚のCSR通信を発行しています。2012年4月2日に第1号を発行し、既に5年間、1200号を数えています。発行したCSR通信は電子媒体(pdf)で社内ポータルに掲載し、各事業場ではA3用紙に印刷して、掲示板等に掲示していただいています。CSR推進部の所属員8名が毎日交代でISO26000の7つの中核主題を中心に作成しています。

安全、環境などでは特集を企画し、各事業場の活動について安全管理者、環境管理者に協力いただき作成することもあります。また、社会貢献活動で「桜の植樹」に参加した方々には感想と写真を添えて作成していただいています。

2017年5月からは毎日の発行予定表を作成し、どんなテーマのCSR通信が発行されるのかを事前に広報することにした。また、過去5年間に発行された約1000号分のCSR通信をまとめて冊子にする計画も進めています。

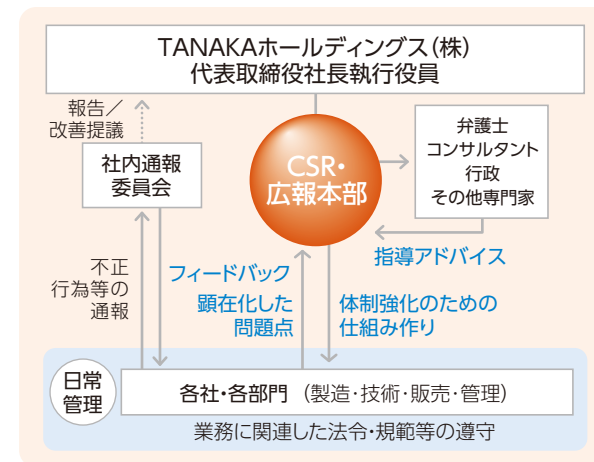


法を遵守するだけでなく、社会倫理に照らして正しい事業活動をグローバルに展開するための取り組みを、グループ全体で継続的に推進しています。

コンプライアンス推進体制

法令を遵守することはもとより、企業倫理に沿った公正で健全な経営を実践しています。コンプライアンスに関する問題点や外部からの情報はCSR・広報本部に集約され、弁護士、コンサルタント、その他の社外の専門家からの指導・アドバイスを受けながら、是正措置を行い、再発防止策を田中貴金属グループ全体に展開しています。

●コンプライアンス推進体制図



社内通報制度

コンプライアンス違反防止に関する取り組みの一つとして、社内通報制度を設け、通報や相談に対し社内通報委員会が調査し、不正行為があったと判断した時は、対象部署に是正措置を講じています。また、通報者は、不利益な取り扱いを受けないよう保護されています。

個人情報管理委員会の設置

個人のお客様の個人情報は、ISO27001(2015年認証取得)に基づき適切に管理しています。マイナンバーを含めた社員の個人情報や法人のお客様の個人情報などもグループ全体で総括的に管理するために、個人情報管理委員会を設置しました。ISO27001に準じた管理方法を個人情報の種別ごとに定め適正に管理しています。

ハラスメント研修

パワーハラスメント、セクシャルハラスメント、及び各種差別の防止のため、2014年度から「ハラスメント研修」を実施しています。管理監督者と一般社員を隔年で交互に対象としており、2016年度は管理監督者向けの研修を国内全拠点で行いました(合計657名が受講)。この研修では、LGBT※への理解を深めました。

※レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダー

海外拠点でのコンプライアンス教育

海外拠点のコンプライアンス違反防止のため、国別に行動規範改定の周知と、「駐在員向け法務基礎教育」、「ナショナルスタッフ向けコンプライアンス教育」を実施しています。2016年度は、台湾、中国、マレーシア、シンガポールなど7カ国16拠点で実施し、合計208名が受講しました。



タイの営業拠点での教育

リスクマネジメント

田中貴金属グループでは、災害時等の事業継続やセキュリティ対策をはじめ、幅広い視点でのリスクを予見し、備えるための取り組みを推進しています。

リスクマネジメント活動

情報漏洩防止のための管理活動、自然災害への対応訓練、法改正に対する体制見直し、取引の国際化への対応など、企業には次々に現れるリスクへの対処が求められます。リスク項目を見直し、社内における対応状況を確認・チェックする機能を活性化して、半年に1回の割合で委員会の場で全体の状況を総括しています。

セキュリティ

国内事業場におけるセキュリティ業務は、社員による警備体制の確立、マニュアル類の整備が一段落し、人的資源の確保、機械警備設備の更新に順次取り組むべき段階にあります。2020年までは国内の警備業界においても人員不足による問題の発生が予想される中で、海外事業場での問題点も参考にしながら、効率的かつ効果的な警備業務が実行できるよう準備していきます。



事業継続計画(BCP)

2017年2月に、首都直下型地震発生を想定した緊急対策本部対応訓練を実施しました。今後30年のうちに70%以上の確率で発生すると想定される大型地震を回避することは困難ですが、備品の準備、マニュアルの見直しや訓練の実施によって被害を最小限とする努力を継続しています。特に、自然災害によって生じる様々な状況への対応を想定した計画を再構築しています。

2017年度は、生産現場における事業継続を視野に入れた対応訓練を実施し、問題点を把握してさらに改善を加え、いざという時の準備を進めています。

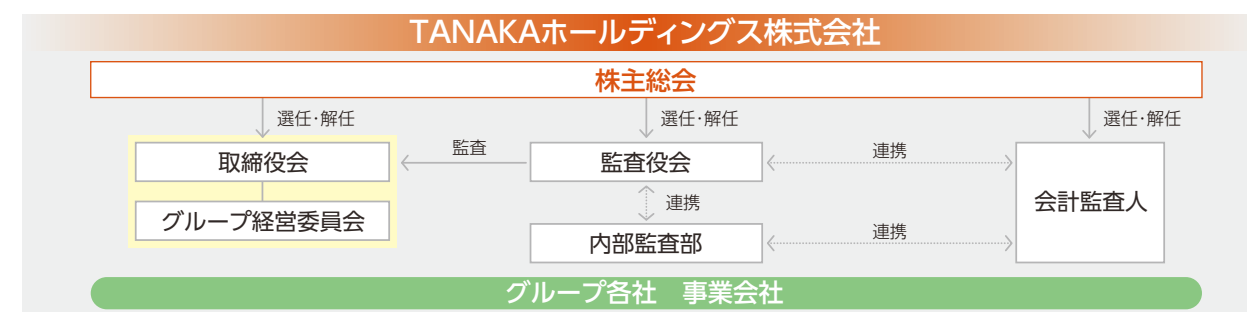
CSRマネジメント

企業理念のもと、貴金属のリーディングカンパニーとして、健全な事業活動を推進し、さらに地域社会の一員として社会的責任を果たすことに努め、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献します。そのために、社会的責任の国際規格であるISO26000に基づくCSRマネジメントを、CSR・広報本部CSR推進部と各拠点が連携して積極的に進めています。

CSRと経営の基盤

田中貴金属グループは、健全で透明性が高く、かつ全てのステークホルダーの立場を尊重した経営を維持していくための仕組みを構築・強化しています。

●コーポレート・ガバナンス体制図



●取締役会(取締役)

変化の激しい経営環境に効率的に対応するため、及び経営責任を明確にするため、グループ各社の取締役の任期は1年としています。TANAKAホールディングス(株)の取締役会は、自らはもとよりグループ全体の業務執行に関する基本方針を決定します。また、グループ各社の取締役会は、重要事項を決定するほか、業務執行状況について報告を受けることにより、取締役の業務執行を監督します。

●グループ経営委員会

グループ全体に関わる重要事項やグループ各社間の調整が必要な事項に関し、取締役会における審議・運営を円滑に行うために、グループ経営委員会にて各事項の審議・裁定・調整・承認を行います。また、グループ各社の社長が出席するため、各社の活動報告並びに情報共有も目的の一つとしています。

●監査役会(監査役)

TANAKAホールディングス(株)は、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行い、または決定するため、監査役全員による監査役会を設置しています。監査役は主に取締役の業務執行を監視する役割を担います。

●内部監査部

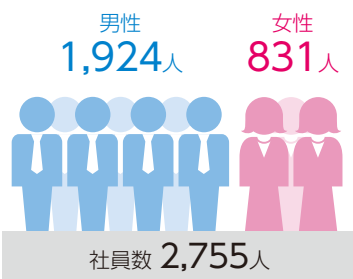
内部監査部は、グループ各社の経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、公正かつ独立した立場から、業務が適正かつ効率的に実施されているかを評価・検証し、経営層に提言する役割と責任を負っています。また、監査役会や会計監査人と定期的に意見交換を行うことにより、相互連携を確保しています。

コーポレート・ガバナンスと内部統制

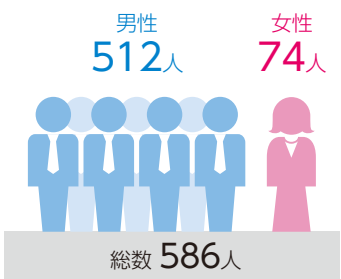
健全で透明性の高い経営を実現するために、経営に対する監視の仕組みを充実させ、常に効率的で競争力のある企業集団となることを目指しています。

また、全てのステークホルダーの皆様の権利と利益を尊重し、適法かつ妥当な業務執行、適正かつ透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的に、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、内部統制システムの基本方針を定めています。この体制と基本方針に基づき、経営目的の達成に向けた内部統制システムの中で、取締役会・グループ経営委員会・監査役会・内部監査部が、確実にそれぞれの役割を果たしています。

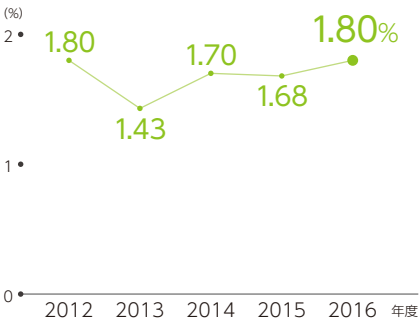
【従業員数(国内)】
2017年3月末現在



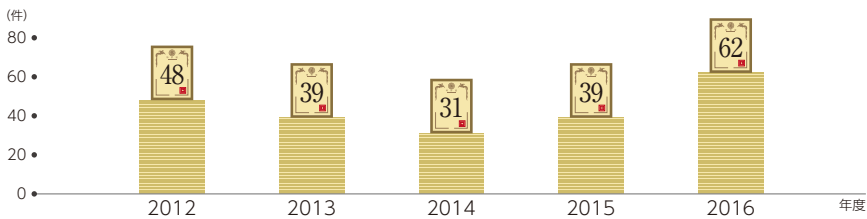
【マネージャー以上管理職人数】
2017年3月末現在



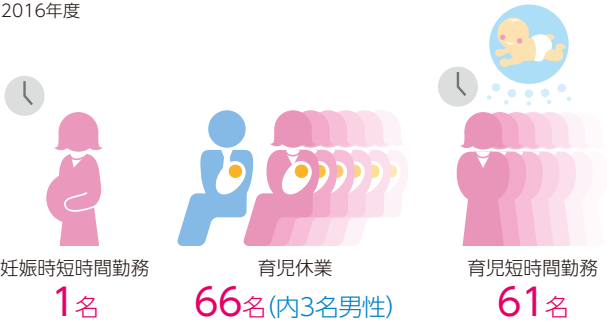
【障がい者雇用率】



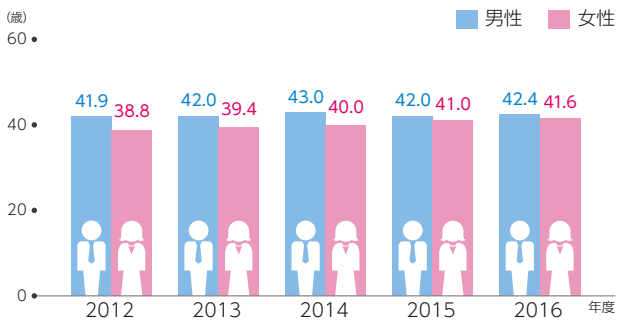
【新規特許登録件数(国内)】



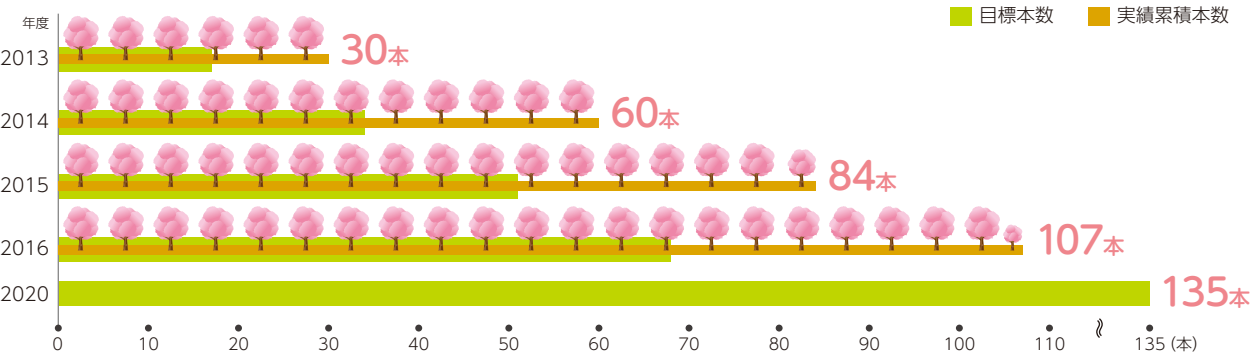
【育児休暇等制度の利用人数(国内)】
2016年度



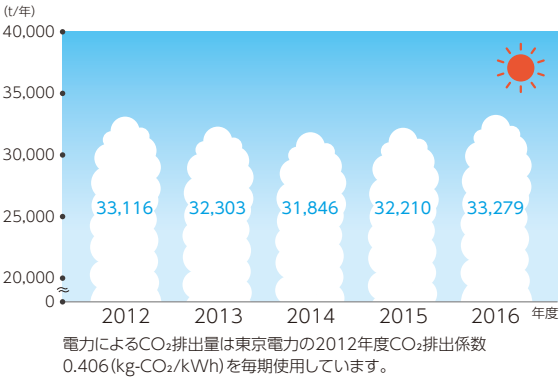
【平均年齢】



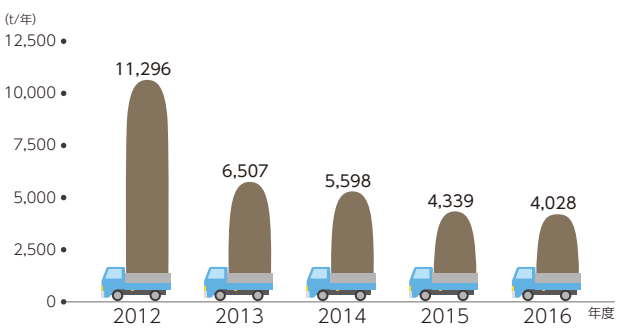
【東北復興支援ボランティア 桜の植樹本数(累計)】



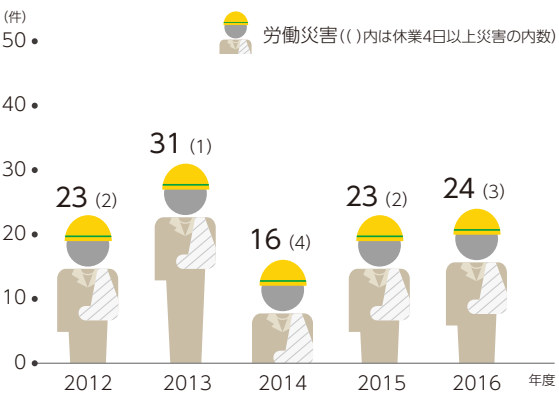
【CO₂排出量】



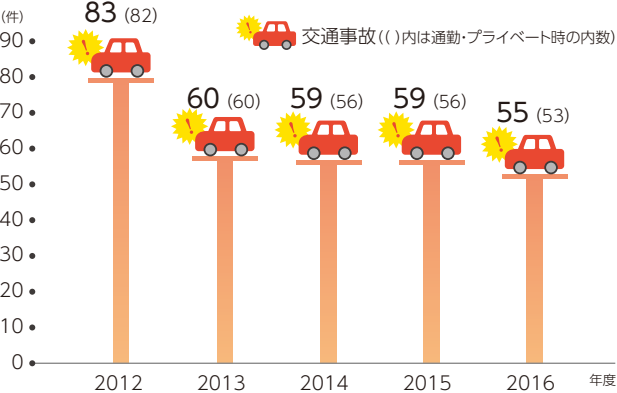
【産業廃棄物排出量】



【労働災害発生件数】



【交通事故発生件数】



第三者保証

SUSA
Sustainability Accounting Co., Ltd.

独立第三者の保証報告書

2017年 6月 29日

TANAKA ホールディングス株式会社
代表取締役社長執行役員 田苗 明 殿

株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史

1.目的
当社は、TANAKA ホールディングス株式会社（以下、「会社」という）からの委嘱に基づき、「CSR 報告書 2017」22-23 頁掲載の 2016 年度 CSR パフォーマンスの各種指標（以下、「各種指標」という）に対して限定的保証業務を実施した。本保証業務の目的は、各種指標が、会社の定める算定方針に従って算定されているかについて保証手続を実施し、その結論を表明することにある。各種指標は会社の責任のもとに算定されており、当社の責任は独立の立場から結論を表明することにある。

2.保証手続
当社は、国際保証業務基準 ISAE3000 に準拠して本保証業務を実施した。当社の実施した保証手続の概要は以下のとおりである。

- ・算定方針について担当者への質問
- ・算定方針の検討
- ・算定方針に従って各種指標が算定されているか、試査により入手した証拠との照合並びに再計算の実施

3.結論
当社が実施した保証手続の結果、各種指標が会社の定める算定方針に従って算定されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。

会社と当社との間に特別な利害関係はない。

以上



清水 正道

筑波学院大学客員教授、CCI研究所代表。日本広報学会 経営コミュニケーション研究チームリーダー、日本パブリックリレーションズ協会監事、環境カウンセラー

【略 歴】

横浜国立大学経済学部卒業、日本能率協会を経て淑徳大学国際コミュニケーション学部・経営学部教授。2014年退職しCCI研究所設立。専門は環境／CSRコミュニケーション、広報マネジメント。主要著書に『戦略思考の広報マネジメント』『三方よしに学ぶ人に好かれる会社』『環境コミュニケーション』『人にやさしい会社―安全・安心、絆の経営』『広報・PR概論』『CC戦略の理論と実践―環境・CSR・共生』『会社員のためのCSR経営入門』など多数。

仮に「田中貴金属グループの印象は?」と問われたら、私は「企業価値というタネを埋め込む会社」と表現するでしょう。それは平塚工場でのさわやかな笑顔や、まるで川のように流れるラインの極小部品を見たときに感じられたことでした。この経験を踏まえて本報告書の内容についてコメントします。

3つのキーワード 自由闊達、「つなぐ」、企業価値

今年のトップメッセージには、昨年に続き2020年を目標年度とする中期経営計画の達成に向けた「攻めと守りの施策」がしっかりと掲げられています。そしてわが眼に飛び込んできたのは、「自由闊達な企業風土」と2020年に向けた「ありたい姿」という文字でした。

続いて、「障がい者スポーツ支援」と「熊本・東北復興支援」という二大活動への取組が表明されていることでした。

私はトップの言葉にどのような意味が込められているのかと、何回か読み返しました。そしてようやく、今年新たに「TANAKAが創出する価値」について組み込まれたことの意味が、徐々に理解できるようになりました。

産業面では、まさに工場で目に飛び込んできた「電極、配線、接点」や「触媒」のことが述べられています。また右ページの資産・宝飾面では「安心、信用、リサイクル」について語られるなかで「お客様の期待を裏切らないという姿勢は、製品

や接客に滲み出る」という印象的な言葉が書かれています。当社の製品もお客様の接客も、モノとモノ、人と人とを「つなぐ」ところに意味が込められているのではないのでしょうか。部品は国内取引先だけでなく、アジア各国から欧米にまで届けられます。またその原料は、世界各国の地域から輸入され、田中貴金属グループで新しい価値を生んでいきます。

私が冒頭で「企業価値」に触れたのは、当社の事業や活動が、たとえ直接見えなくても、世界の産業や人びととしっかりつながっていると思ったからです。しかも4ページの企業業績を見ると、当社は1兆円企業です。日本にはこの規模の企業は、150社ほどしかありません。環境マネジメント規格であれ社会的責任規格であれ、要求されているのは「影響力にふさわしい活動」ですので、この面でもバランスを取っていく必要があります。

「1997年」と「2020年」とつなぐもの

2020年は当社の中期経営計画の目標年次であると共に、東京オリンピック・パラリンピックが開催年です。今年から来年にかけて、施設整備からボランティア募集までさまざまな準備の姿が見えてくるでしょう。それと同時に、シドニーオリンピックから取組まれ始めた環境配慮への取組も加速していくことでしょう。

すでに大会組織委員会からは「持続可能性に配慮した調達コード」も発表され、今年4月に発効されたISO20400（持続可能な調達）と併せて、これまでの環境やCSRへの配慮行動への取組は強まりこそすれ、後退することはないでしょう。ぜひこの新たな潮流のなかで、当グループなりのリーダーシップをしっかりとっていただきたいと思います。

リーダーシップの欠かせない条件のひとつは「優秀な人材を周囲に集めて、その能力を使いこなす」ことだと思います。いかに有能でも一人では何もできません。周囲の人や取引先を巻き込む能力、そして人材を生かし使いこなす能力をもって、事業やCSRの活動のタネを見いだし、育てていただきたいのです。

そのためには、このCSR報告書の各項目の相互関係をしっかりと読み解いていただくだけでなく、当グループウェブサイトに掲載する各種情報や各職場・ラインでの体験や経験と重ね合わせて読み込んでいただくことを切望しております。

第三者所感を受けて

田中貴金属グループは、GOGO計画2020における2020年のありたい姿「自由闊達な企業風土を継承し、貴金属事業の3本柱の更なる推進により、グローバル企業に成長・発展している」に向け、安全を最優先した活動、産業廃棄物の削減活動、CO₂排出量削減活動、環境異常ゼロ活動等により、企業のブランド価値を向上させるとともに持続可能な社会の実現に貢献することを目指したCSR活動に積極的に取り組んでおります。

CSR報告書2017年版は、新たな紙面構成のひとつとして「TANAKAが創出する価値」を取り入れました。これは、昨年版に対する「CSR推進活動をより理解して頂く為の工夫が必要である」との清水先生のご指摘を踏まえて、ステークホルダーの皆様のご理解を深めていただける分かりやすい構成内容を目指したものです。

また今年度いただきました「新たな潮流のなかで、当社なりのリーダーシップをしっかりとっていただきたい」という課題に関しては、田中貴金属グループがグローバル企業に成長・発展する為の重要な案件として受け止め、CSR推進活動と共に積極的にグループ全体に展開していきます。

このCSR報告書によってさらにステークホルダーの皆様のご理解が深まりコミュニケーションツールとして役立つようにしたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。



TANAKAホールディングス株式会社 執行役員 CSR・広報本部 本部長 川岸 哲哉

ISO26000対照表				
ISO26000の中核主題	課題	TANAKAの取組み	ページ	
 組織統治	リスクマネジメント	リスクマネジメント活動／事業継続計画(BCP)／CSRマネジメント	P.20	
	セキュリティ	セキュリティ	P.20	
	コーポレートガバナンス	コーポレート・ガバナンス体制図／コーポレート・ガバナンスと内部統制／取締役会(取締役)／グループ経営委員会／監査役会(監査役)／内部監査部	P.21	
 人権	サプライチェーンCSR	公認審査会社(グッド・デバリー・レフリー)／QMSによる品質管理活動／品質マネジメントシステムの体系図 CSRサプライチェーンマネジメント／紛争鉱物問題への取り組み／キンバリー・プロセスを遵守	P.10 P.11	
	コンプライアンス	コンプライアンス推進体制／コンプライアンス推進体制図／社内通報制度／ハラスメント研修／海外拠点でのコンプライアンス教育	P.19	
 労働慣行	安全	安全活動／中央安全方針	P.16	
	衛生	衛生活動／健康チャレンジ	P.17	
	人材育成	人材育成／雇用の多様性／2016年度数値／CSR通信	P.18	
 環境	環境	中央環境方針／環境マネジメントシステム／CO ₂ 排出量削減への取り組み 岩手工場の省エネ事例／湘南工場の省エネ事例／廃棄物排出量削減への取り組み／田中電子工業(株)での廃棄物削減事例／環境異常撲滅活動／環境異常発生件数	P.12 P.13	
 公正な事業慣行	知的財産の創出と保護	知的財産の創出と保護／2016年度に取得した特許から	P.09	
 消費者課題	研究開発のアプローチ	ジカウィルスの検出試薬を開発／超微細回路を簡便・高速・大面積に印刷できる新原理の印刷技術を開発	P.08	
	情報セキュリティ	個人情報管理委員会の設置	P.20	
 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	社会貢献活動	障がい者スポーツ支援／「高専ロボコン」協賛 愛の絆桜の植樹135／貴金属に関わる研究助成金	P.14 P.15	